群教セ	G02 － 02
	平27.257集
	社会－小

社会的事象の意味を考え、表現することができる社会科指導の工夫

――複写シート「わけるくん」を活用した学び合い活動を通して――

特別研修員　青木　加奈子

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

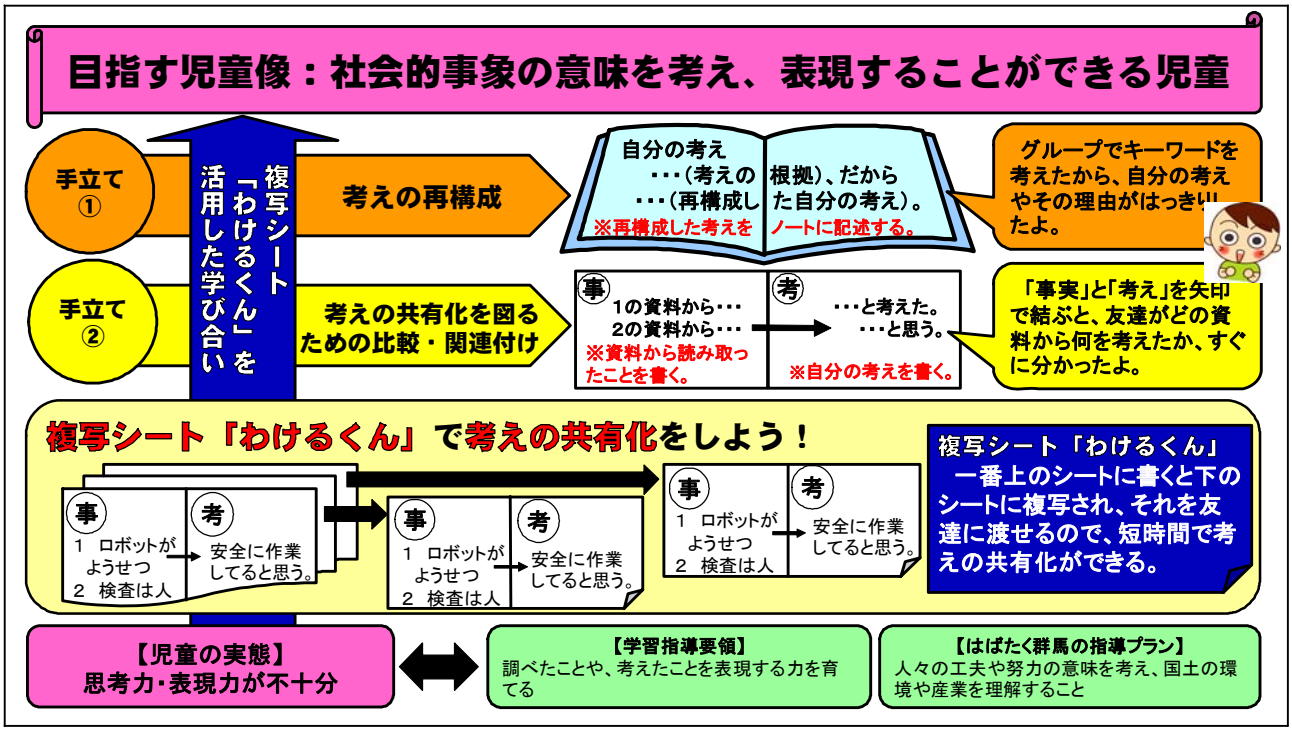
小学校学習指導要領解説社会編では、能力に関する目標の中に「調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と明示されている。また、はばたく群馬の指導プランでは、伸ばしたい資質・能力として「人々の工夫や努力の意味を考え、国土の環境や産業を理解することができる」と挙げている。このことから、社会的事象の意味について考え、表現することを通して、我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようになることが求められている。

本学級の児童の実態として、一つの資料からいくつかの情報を読み取ることはできる。しかし、複数の資料を比較・関連付けたり、総合し根拠を明確にしながら考えを再構成したりする力がまだ不十分である。そのため、一人一人の学びでは考えに深まりが見られず、発表やノートの記述を見ても、社会的事象の意味を考え、表現するまでに至っていない。

そこで、複写シート「わけるくん」を活用し、資料の比較・関連付け、考えの共有化・キーワード化、考えの再構成をするための学び合い活動を取り入れることにより、社会的事象の意味を考え、表現することができるようになるであろうと考え、本研究テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

⑴ 実践１「寒い土地のくらし　－北海道十勝地方－」

十勝地方の自然を生かした産業の工夫や努力を考え、表現するために次のような手立てを試みた。

①複写シート「わけるくん」に「事実」と「考え」を記入して友達に配り、考えの共有化をする。 ②複写シート「わけるくん」を活用した学び合い活動で、友達の考えのよさや自分との共通点を伝え合い、考えを再構成する。

くらしや仕事の中で人々が工夫や努力をしていることの意味を考えるためには、資料から読み取った自然環境や産業の様子を共有しながら根拠を明確にし、考えを再構成することが必要であると考えた。そのための手立てとして、複写シート「わけるくん」で友達と効率良く考えの共有化を図り、学び合う時間を確保できるようにした。

手立て①により、根拠を持って自分の考えを表現できる児童が見られた。また、友達の発表を聞きながら、シートに印を付ける活動を取り入れたことは、互いの考えのよさに気付くことにつながった。一方で、シートに書かれた「考え」が、どの「事実」を基にしたものなのかがはっきりせず、事実と考えが混同してしまう児童も複数いた。手立て②では、互いの考えのよさを認め合うことができ、自分の考えに自信が持てる児童が増えた。しかし、活動の目的を児童が十分に理解できていなかったため、個々の発表が中心になり、学び合いに深まりが見られず、その後の再構成された考えでは、社会的事象の意味を考えた表現があまり見られなかった。

⑵ 実践２「自動車をつくる工業」

実践１を踏まえて、実践２では以下のように手立てを加え改善することとした。

①複写シート「わけるくん」に書く「考え」の語尾を統一し、「事実」と「考え」の違いを明確化する。「事実」とそれに対応する「考え」を矢印で結び、比較・関連付けが十分に行えるようにする。 ②学び合い活動の目的を明確に示すとともに、キーワードを考える活動を取り入れ、考えを再構成する。

手立て①の改善により、「事実」と「考え」を区別した上で、比較・関連付けながら自分の考えを持てる児童が増えた。また、手立て②の改善により、自分や友達の考えを生かし、暮らしや仕事の中で人々が工夫や努力をしていることの意味を考える話合いへと活動が発展した。その後再構成された考えでは、友達の考えやグループで考えたキーワードを取り入れ、根拠を明確にしながら社会的事象の意味について考えたことを表現できる児童が増えた。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　複写シート「わけるくん」を活用することにより、資料を比較・関連付けながら、自分の考えを持つことができた。また、効率的に考えの共有化が図れ、学び合いの時間を十分に確保することができた。さらに、友達の気付きや考えを視覚的に把握することにより、社会的事象の意味を考える力にも結びついた。

○　学び合い活動に「なぜ、どうして」という視点で、共通点、相違点、因果関係を探し、キーワードを考える活動を取り入れたことにより、事象を多面的に捉えることができるようになり、社会的事象の意味を考える活動へと深まりが見られた。さらに、友達の考えやキーワードを生かして、根拠を明確にしながら考えを再構成することができるようになり、表現する力を高めることにつながった。

２　課題

○　キーワードを考える活動では、複数の考えの中から共通点を見出せずに話合いが進まないグループがあった。改善の手立てとして、各自がシートに印を付けた言葉や文章を照らし合わせる時間を設けることや、教師がヒントとなる視点を与えておくことが考えられる。

○　学び合い活動を充実させるために、複写シート「わけるくん」を継続的に授業に取り入れるなど、複写シート「わけるくん」のより効果的な活用方法を研究していくことが必要だと考えられる。

＜授業実践＞

実践１

１　単元名　　「寒い土地のくらし　－北海道十勝地方－」（第５学年・１学期）

２　本単元及び本時について

本単元は、北海道十勝地方を事例として取り上げ、家のつくり、農業、イベント、文化など自然条件と人々のくらしや産業との関わりについて、地図や各種資料を活用して調べ、自然条件に合わせたくらしを理解し、そこで生活する人々の工夫や努力について考えることを目標としている。単元を貫く学習課題を「十勝地方に住む人々は、きびしい寒さや気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろう」と設定し、本時は、全４時間計画の２時間目で十勝平野の農業について考える時間である。「十勝地方の農業のなぞをさぐろう」というめあてに対して、前時で学習した十勝地方の気候や提示する複数の資料を基に、グループ内で各自の考えを伝え、意見を交流する学び合い活動を通し、十勝地方の自然を生かした農業の工夫や努力の意味について考え、表現できるようになることをねらいとしている。

３　授業の実際

(1)複写シート「わけるくん」を活用した考えの共有化

社会的事象の意味に迫るため、「広い畑」「大きな機械」「輪作」「涼しい気候」の四つを本時のキーワードとし、これらに児童が気付くことができるように、十勝地方の農業に関わる四つの資料を提示した。

四つの資料から読み取れる「事実」と、それに対応する「考え」を各自の複写シート「わけるくん」に記入するようにした。読み取った事実は、根拠となる資料を明らかにするために、必ず資料番号を添えて書くようにした。また、記述の際には、読み取った事実をできるだけ多く書くようにしたことで、それが自分の考えを持つための材料となっていた。資料の読み取りが困難な児童については、読み取りが容易な一つの資料に絞って提示し、個別に指導した。

次に、自分の考えが複写されたシートを友達に渡し（図１）、各自のノートに全員分のシートを貼るようにした。これにより、短時間でグループ全員の考えを共有化することができた。また、シートを見ることで友達の発表内容を視覚的にも確認しながら聞くことができた。さらに、発表を聞きながら、友達の考えの中で自分と同じ考えには赤線、良いと思った考えには赤丸を付けるようにしたことにより（図２）、自分の考えとの共通点や新たな考えに気付くことができ、感想や意見を伝える活動へとつながった。

図１　考えが書かれた複写シート

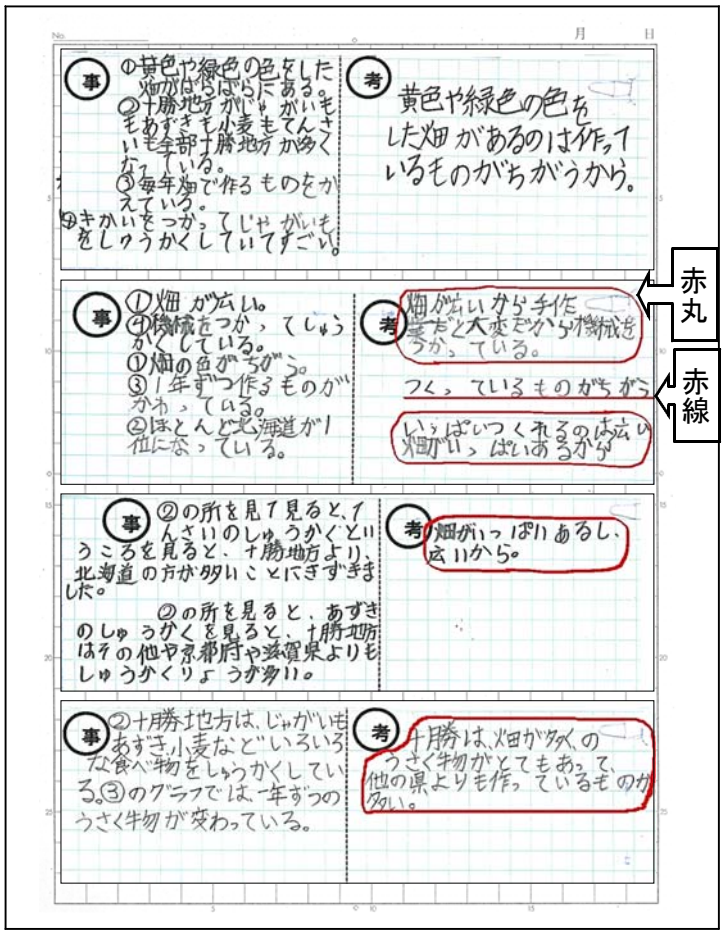


図２　ノートに貼られた自分と友達のシート

(2) 学び合い活動を生かした考えの再構成

少人数グループでは、一人ずつ発表→内容の検討→友達からの感想・意見の流れで活動を進めた。このような活動に慣れていなかったので、話合いのマニュアルを示すことで、円滑な活動になるよう促した。内容の検討では、発表者の読み取った「事実」が資料に合っているかを全員で確認するようにした。また、発表者に対して感想・意見を伝える際には、シートに付けた印を基に、自分の考えとの共通点や友達の考えの良い点を伝えるように助言した。この活動により、自分の考えに自信を持つことや、自分とは視点の異なる考え方に気付くことができた児童が見られた。

その後の考えの再構成では、シートに付けた印や友達からの感想・意見を取り入れながら、「十勝地方の農業のなぞ」は何かを再度考え直すようにした。はじめの考えでは、複数の資料から一つのことしか読み取れていない児童が多かったが、再構成した考えでは、少数ではあるが、複数の視点を持った考えを表現できる児童が見られるようになった。

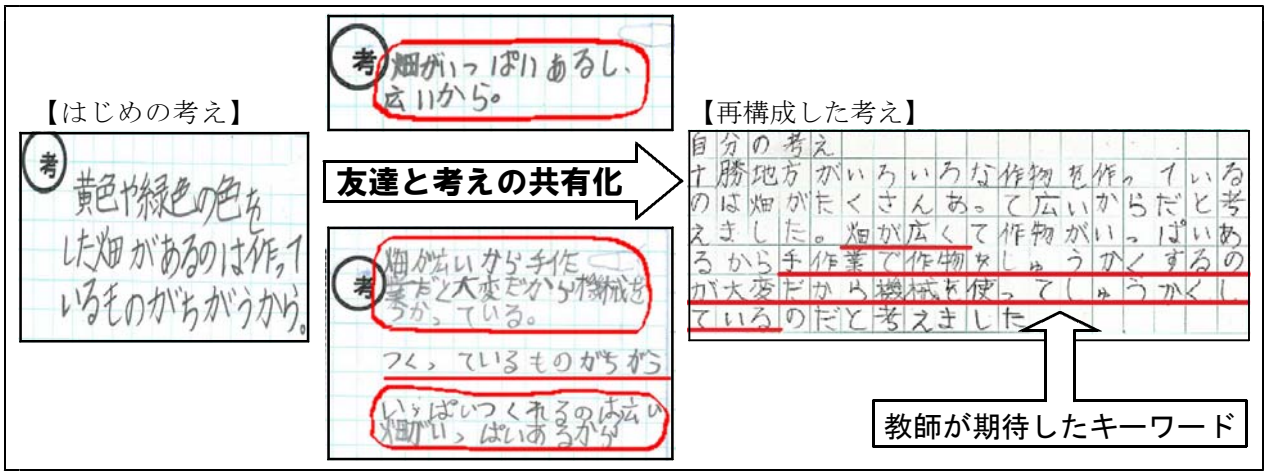


図３　児童Ａの考えの変化

児童Ａは、はじめに輪作につながる考えを持つことができた。学び合い活動後に再構成した考えでは、はじめの考えになかった「畑が広い」や「機械を使って収穫する」というキーワードに気付くことができた。しかし、グループの他の児童の発表が畑の広さや大型機械に関する一面的な内容になっていたため、はじめに自分が考えた輪作に関する記述がなくなってしまった（図３）。

４　考察

○　36人中32人の児童が、はじめの考えを持つことができていることから、まず複写シート「わけるくん」に資料から読み取った事実を書き、それを基に自分の考えを書くという手順は有効であるといえる。ただし、事実と考えを混同して記述している児童が２人、事実とつながりのない考えを書いている児童が２人いたことから、事実と考えを区別し、両者のつながりを持たせた思考ができる手立てを講じることが必要であると考えた。

○　友達のシートをノートに貼ることにより、友達の発表を耳と目の両方で確認しながら聞くことができた。一方で、発表された事実や考えが、資料の内容と合っているか検討を行う活動を設定したが、マニュアルに沿った形式的なものになってしまい、学び合い活動に深まりが見られなかった。

○　考えの再構成では、36人中35人が自分の考えを書くことことができた。そのうち、29人については、教師が求めるキーワードに気付き、考えの中に取り入れていたことから、グループでの学び合い活動が有効に働いたと考えられる。しかし、友達の考えをそのまま用いた表現や資料の捉え方が一面的な表現も多く見られた。これは、グループでの学び合い活動が発表に終始してしまい、「なぜ人々が工夫や努力をしているのかを考える」という活動の意図が理解されていなかったためと考えられる。

実践２

１　単元名　　「自動車をつくる工業」（第５学年・２学期）

２　本単元及び本時について

本単元は、自動車工業に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを理解するとともに、これら我が国の工業生産が、消費者や社会のニーズに応え、国民生活を支える重要な役割を果たしていることに気付くことを目標としている。単元を貫く学習課題を「自動車づくりにたずさわる人々は、消費者に選ばれる製品をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしているのだろう」と設定し、本時は全８時間計画の３時間目で自動車の生産工程における人々の工夫や努力について考える時間である。「組み立て工場のなぞをさぐろう」というめあてに対して、生産工程を示す写真資料や社会科見学のしおりを基に、グループ内で各自の考えを伝え、キーワードを考える学び合い活動を通し、人々の工夫や努力について考え、表現できるようになることをねらいとしている。

３　授業の実際

(1) 複写シート「わけるくん」に矢印を利用した比較・関連付け

本時のキーワードである「すばやく」「安全」「正確」に児童が気付くことができるように、自動車の生産工程を示す五つの写真資料を提示した。また、社会科見学でメモしたことも活用してよいこととした。それらの資料から読み取れる「事実」と、それを基にした「考え」を各自の複写シート「わけるくん」に記入した。

実践１では、事実と考えが結び付けられない児童や事実と考えを混同してしまう児童が複数いたことから、実践２では、考えの文末を「～と思う」「～と考えた」とすることにより、事実と考えを明確化した。また、考えとその基になった事実を矢印で結び、比較・関連付けが十分にできるようにした（図４）。自力で資料の読み取りや考えを持つことができなかった児童には、特徴の捉えやすい一つの資料だけに絞って提示し、さらに視点となる部分に印を付けるという支援を行った。

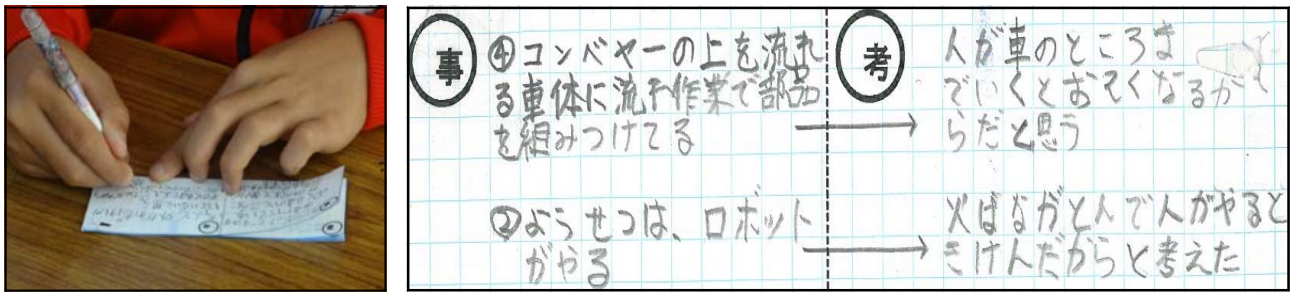


図４　複写シート「わけるくん」に記入する様子（左）と、矢印を用いて記入したシート（右）

(2) キーワードを考えるグループ活動と考えの再構成

実践１では、学び合い活動のねらいが曖昧で、児童の思考に深まりが見られなかったので、実践２では、活動に入る前に、「新しい考えを見付ける」「自分の考えの良さを確認する」という活動の目的を全体で確認した。また、全員が学習のねらいに迫れるように、全員の発表→今日の学習のキーワードを考えるという形に活動の内容を改善した。

キーワードを考える場面では、発表を聞きながら各自がシートに印を付けた部分から、共通する言葉や文章を見付ける様子が見られた。「機械と人が協力している」「危険な作業は機械、細かい作業は人」といった言葉が出され、「協力」や「安全」といったキーワードに結び付けていた（図５）。話合いが停滞したグループやキーワードが決まらないグループに対しては、教師が子どもたちの言葉をつないだり、ヒントを与えたりして、子どもたちの気付きを促した。

Ｓ１：「組み立て工場のなぞ」について、キーワードは何かを話し合います。自分がキーワードだと思う言葉とその理由を教えてください。

Ｓ２：プレス機や溶接ロボットが、活躍しているから、「機械」がキーワードなんじゃないかな。
Ｓ３：機械もいっぱい使っているけど、「機械ができないことは人がやっている」という考えもあるよ。
Ｓ１：先生、キーワードは二つあってもいいんですか。
Ｔ　：いいですよ。でも、機械と人って、全く違うものだよね。どうして、その二つがキーワードになると思ったか、理由をよく話し合ってください。
Ｓ１：機械やロボットは、鉄板みたいに重くて力がいるところとか、溶接みたいに火花が出て危ないところで使われているよね。
Ｓ３：組み立てラインは、狭いところに細かい部品をいくつもはめていくから、機械では難しそうだよね。だから人なのかな。
Ｓ２：機械の方がいい作業と、人の方がいい作業があるってことだよね。
Ｔ　：機械の仕事と人の仕事を分けると、どんなことがいいのかな。
Ｓ１：安全に、正確に車が作れるってことだよね。

図５　学び合い活動でキーワードを考える様子

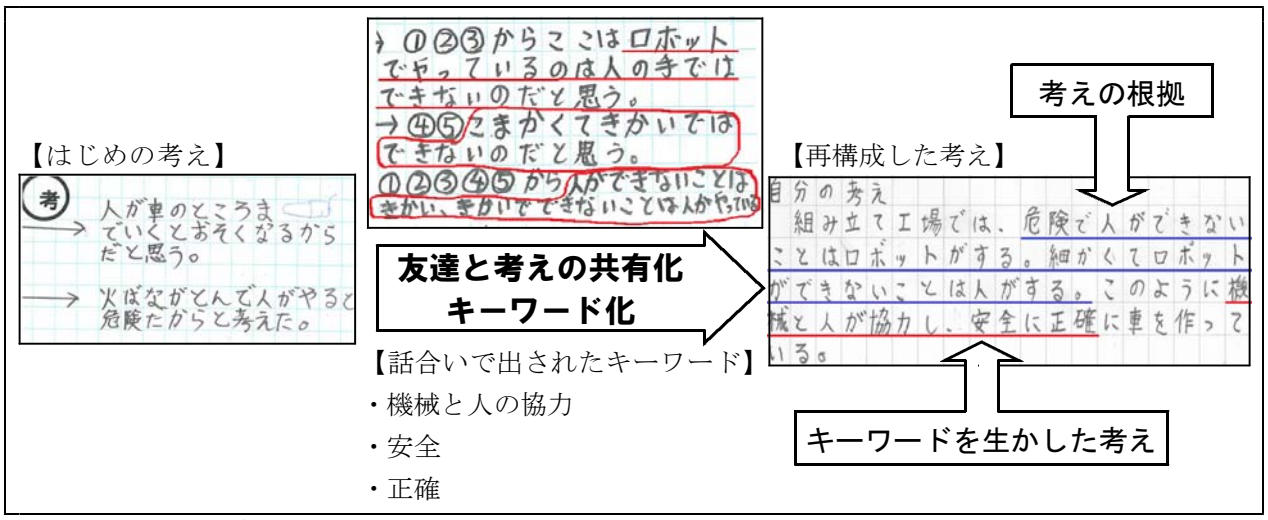


図６　児童Ｂの考えの変化

児童Ｂのはじめの考えでは、ロボットの必要性だけに言及している。その後、グループで考えの共有化とキーワードを考える活動を行い再構成された考えでは、考えの根拠を明確に示し、機械と人の特性に合わせた仕事の分担に言及することができた。このことから、児童Ｂは本時のねらいに十分に迫れていると考えられる（図６）。

４　考察

○　複写シート「わけるくん」の記述方法に矢印を用いたことで、どの事実を基にどのような考えを持ったのか、思考の流れが視覚的に捉えられ、根拠の明確化が図れた。これにより、そのシートを見た他の児童も資料と考えを照らし合わせて確認することができ、学び合い活動でも有効に活用された。

○　学び合い活動に入る前に、再構成の材料を見付けるという目的を確認したことにより、自分と友達の考えの共通点や友達の考えのよさを探そうという意欲が高まり、シートへの印を多く付けられる児童が増えた。キーワードを考える活動では、印を付けた言葉や文章を中心に話合いを進めるグループが多く見られ、徐々に児童の思考を深めていくことができた。その過程で、事象を一面的にしか捉えられていない児童が、同じ資料でも違う見方があることや、複数の資料から共通して言えることがあることに気付くなど、多面的な捉え方へと変容することができた。

○　再構成の場面では、教師が期待していたキーワードである「すばやく」「安全」「正確」の言葉を取り入れた記述は17人であったが、「協力」「分担」「効率よく」といった生産工程全体の特徴を捉えた言葉やそれを意味する文章表現をした児童も14人いたことから、複写シート「わけるくん」を活用した学び合い活動は、社会的事象の意味を考え、表現する力を育てることに有効であったと言える。